政策コメンテーター報告（第２回、意見照会期間：2015年２月27日～３月12日） 嶋中 雄二：三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社参与 景気循環研究所長

質問事項		選択式回答	記述式回答
経済動向		良くなっている	15年3月上旬から中旬にかけての経済状況は、3ヵ月前の14年12月上旬から中旬に比べて良くなっている。鉱工業生産指数の12月実績は98.7（10年=100）であったが、製造工業生産予測指数の2月見込みと3月予測の前月比伸び率を用い、1月実績（102.6。但し、速報値）を先延ばしして3月の水準を求めると99.5になり、12月実績を上回る。 前年の3月は消費増税前の駆け込み需要が見られたものの、2月に山梨県甲府市を中心とする記録的豪雨により生産が急落していたため、1月の水準に及ばず、生産はそのまま下降基調に入った。これに対して現在は、14年9月からの生産回復の基調にある。
1	2015年３月上旬から中旬にかけての経済状況について、関連する業界、地域等の現状やご自身の知見・経験等を踏まえ、3か月前(2014年12月上旬から中旬)と比べて良くなっているか、悪くなっているか選んでいただき、その理由をデータや具体的な事例とともに300字以内でご記入ください。その際、前年との違い等お気づきの点があれば併せてご記入下さい。		
経済の好循環実現に向けた取組について		－	基本的には、昨年の政労使会議で取りまとめられた取組の継続に尽きるのではないか。あとは、日銀の適切な金融緩和政策により、足元で再びゼロ近傍にまで低迷し始めた消費者物価上昇率を引き上げ、失業率とのトレード・オフ関係を利用して雇用需要を一段と高め、賃金上昇に繋げるべきだろう。
２－１	足下の企業収益の拡大が速やかに賃金上昇や雇用拡大につながり、更なる消費や投資の拡大に結び付くためにとるべき対応について、具体的なお考えがございましたら、500字以内でご記入ください。		
２－２	好循環が生まれ始めている一方、非正規労働者や中小企業等への波及が重要との指摘もございます。そうした観点から強化すべき取組について、お考えがございましたら300字以内でご記入ください。	－	自動車産業の生産計画が弱いことが気になっている。同産業は裾野が広いため、非正規労働者の雇用・賃金の状況や中小企業の業況に大きな波及効果を持っている。ところが、ある大手自動車メーカーについて業界紙等が発表している生産実績並びに計画を見ると、足元は驚くほど弱いように思われる。消費増税後の14年4－6月期以降、季節調整済み前期比で丸1年間減産が続いている。そして、15年4－6月期の生産計画も今のところ微増にすぎない。これは、14年7-9月期と10-12月期における、前期比ベースでの輸出数量の不調と、10-12月期以降、15年1－2月まで続いている国内販売の極端な不振が原因と考えられる。輸出数量は持ち直してきたが、国内販売については、乗用車（普通車＋小型）で、1－2月平均が10-12月期比4.4%減（7-9月期は前期比2.6%減）だ。自動車産業に絞った、何らかの政策的テコ入れが必要だろう。